

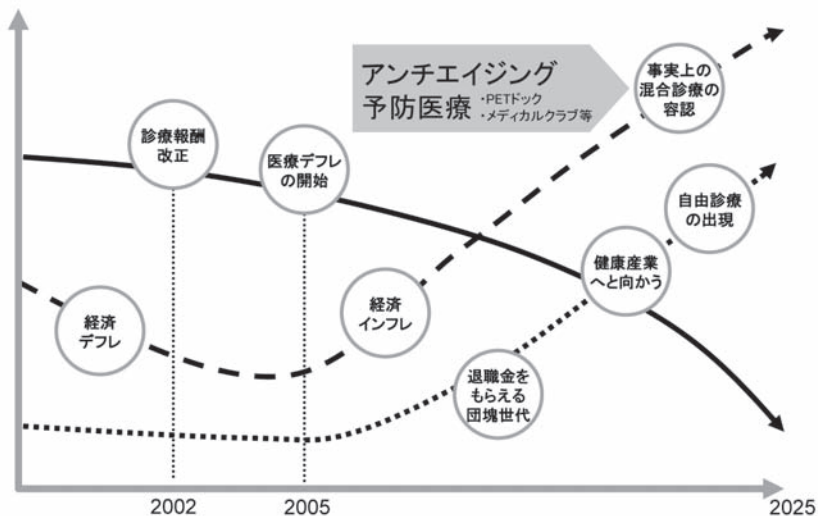
測は的中し、しわ寄せは皆様の日常に浸潤しているのが現状です。この医師の労働環境、特に私の専門である画像診断の環境を良くしなければ医療に未来はないと考え、医師として勤務しながら会社を設立しました。

100年に一度の金融危機の中、实体经济への影響が深刻化しています。日本では、医師不足による医療崩壊が現実のものとなっていますが、これからは实体经济の悪化により、優良企業の業績悪化から健康保険組合が解散し、これまで健康保険組合が支払っていた老人医療費拠出金などの負担ができずに、皆保険制度の崩壊＝医療保険崩壊^〆に向かおうとしています。

昨年は、西濃運輸の健康保険組合が解散しました。このように健康保険組合の解散により政府管掌健保と国民健康保険だけになり、国民健康保険を管轄する市町村は、それこそ税収不足から破綻に追い込まれると思われれます。政府は、おそらく今後でも『ない袖は振れない』ということで、診療報酬削減を続けると思われれます。これにより、存続できる医療機関は自由診療を実施しているところに限られ、医療崩壊はさらに加速し、地方での医療提供は困難となり、メデイカルフライトのように海外へ医療を受けに行くことなども現実となってくるはずですが。

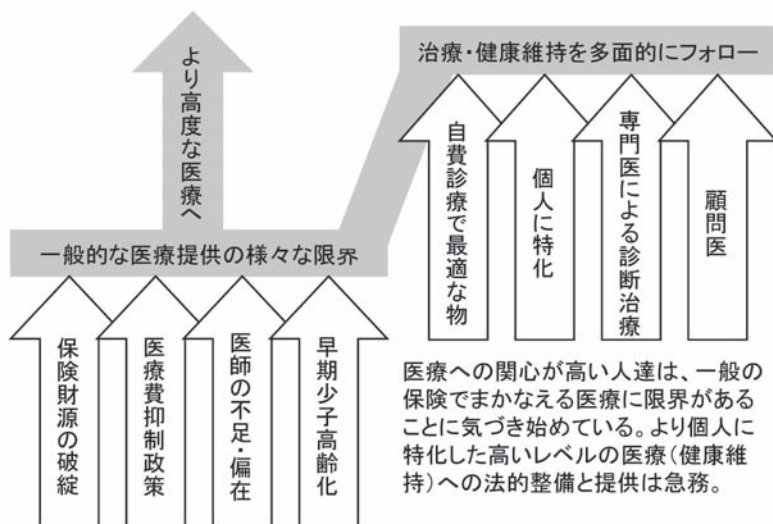
これからは「自分の体は自分で守る」ということがさらに重要になってくるのです。

日本経済と医療のトレンド 本格的な自由診療の出現



サブプライムの破綻による金融危機が取り沙汰されていますが、金融などの効率の高い産業が危機に陥ると、社会保障システムの財源を確保することはきわめて難しいのではないかと思います。英国が、サッチャー政権下で社会福祉をしばり医療崩壊を起こしましたが、金融街であるシティが復活したために、ブレア政権下では急激な社会保障費を増やす政策がとられました。しかし、英国の医療がよくなったか？といえは優秀な医師が別のEU諸国に流出したので、思ったほどの効果はでていません。一度壊したものを再構築するには、10年単位の修復期間が必要で、日本の経済状況を考えるとかなり暗い将来が予想されます。それゆえ給付範囲が狭まる公的医療保険を補完するために、民間医療保険が必要であり、混合診療を避けて通れなくなります。また、公的医療保険の破綻とともに、ますます予防医療が重要な役割を果たしてくると思われるます。

混合診療の容認と自由診療の出現



混合診療の容認と自由診療の出現：いい医療を受けたければ、混合診療の問題を解決していかなければなりません。保険診療でカバーしきれない部分を自費診療でまかなうようにしなければ、日本ではいい医療あるいは世界標準治療を受けられなくなる可能性があります。皆さん、一生懸命働いているのですから、病気になったときぐらい、いい医療を受けるためにお金を使える仕組みであるべきではないでしょうか？

メディカルクラブについて

いつもそばにいる「顧問医」
～医学的データに基づいたお抱え医師～

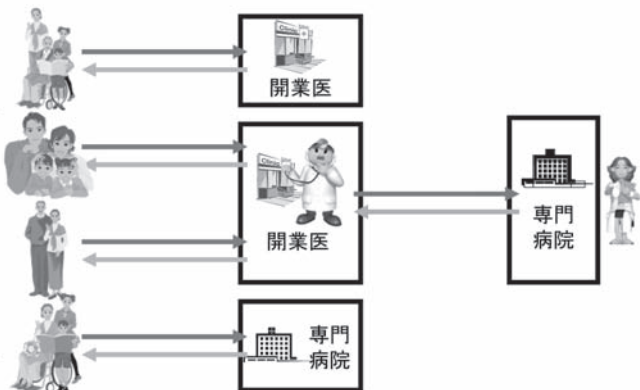
多くの皆様は顧問弁護士・顧問税理士のお世話になっていますが、健康の管理・サポートはどなたのお世話になってますか？ 奥様ですか？ お友達でしょうか？ それともたまに行く近くのお医者様でしょうか？ 皆さんの健康管理を一ヶ所ですべて記録・管理して、適切な医療相談を行うことができればどれくらい安心でしょうか？ また、電話一本で自分のカルテを元に相談に乗ってくれる「顧問医」がいてくれたら、どれだけ安心でしょうか？



メディカルクラブとは：顧問医が皆様の健康管理を実施するために画像診断センターに最適な検査を依頼します。画像診断センターには最新の診断機器が導入されており、各分野の専門医が読影を実施します。この専門医のネットワークは、株式会社ドクターネットが遠隔画像診断のインフラを介して提供しています。今後はこの画像診断センターのネットワークを全国展開して、顧問医の提供範囲を全国規模に拡大する予定です。

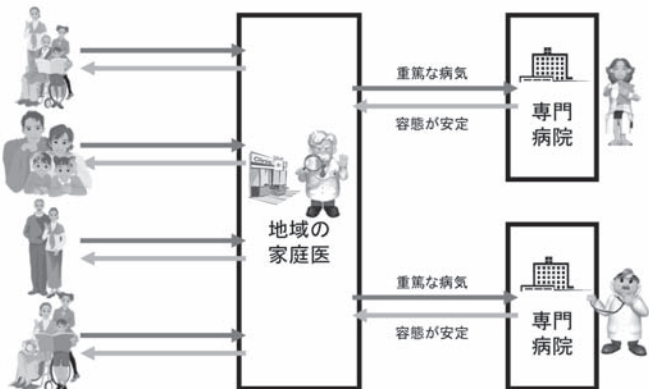
通常の日本の医療

※どの医療機関・診療科にかかるかは患者が各自判断。



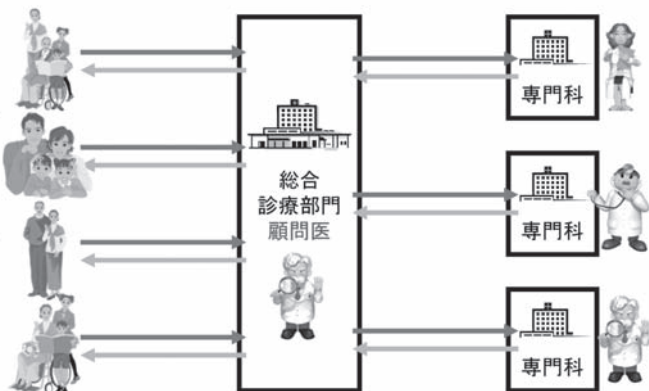
欧米などの医療

※多くの病気は家庭医で対応。必要があれば専門病院に紹介。



総合診療部門を活用

※多くは総合診療部門で対応。必要に応じて専門科と連携。



セントラルメディカル倶楽部での検査内容

「1回目」

●基本検診

(身長・体重・血圧・体組成計等・血液検査)

●MR検査



骨盤(子宮、前立腺)

●CT検査



胸部

●超音波



腹部・甲状腺・
乳房(※女性のみ)

●PET/CT検査



脳・全身
(頸部～大腿部)

「2回目」

*エグゼクティブコースの場合

●MR検査



脳・心臓検査

●眼底・眼圧検査



●胃バリウム検査または内視鏡検査



*上記検査に女性はマンモグラフィーが男性はPSAが追加されます。

予防医療に最適な検査を用意しています。

全国の会員制医療健康サービスと セントラルメディカル倶楽部

会社名	入会金	年会費	会員数	特色
グランドハイメディック倶楽部	611万2500円～785万円	26万2500円～31万6000円	5700名	PET/CTなどを使った検診を実施。年に1回ホテル泊で実施
セコム倶楽部	157万5000円	45万1500円	750名	四谷メディカルキューブでPET/CTなどで検診
新21世紀健康クラブ	5万2500円	10500(月額)	2900名	24時間電話相談、専門医の紹介、提携医療機関で人ドック受診
榊原ウエルネス倶楽部	10万5000円	10万5000円～15万7500円	数人	
ライフケアシステ	10万円	7000円以上の自己申告	350世帯	介護や在宅看護を中心
SBIウエルネスサービス	100万円(予定)	48万(予定)	—	
セントラルメディカル倶楽部	105万円～210万円	2万1000(月額)～25万2000円(年額)	約400名(個人会員～法人会員)	宇都宮セントラルクリニックのPET/CT検査・3テスラMR検査等の最先端医療機器を利用し年に2回に分け3大成人病を中心に検査を実施

全国にはさまざまな会員制の医療サービスが存在します。

- セントラルメディカル倶楽部へのご連絡、お問い合わせは下記までお願いします。

株式会社 CMC

栃木県宇都宮市屋板町 561-6

TEL：028-657-5215 / FAX：028-657-5216

<http://www.central-mc.jp>

ジャパンメディカルサービス株式会社

埼玉県さいたま市大宮区東町 2-284 冠木ビル 301

TEL：048-729-7015 / FAX：048-729-7016

<http://www.saitama-mc.jp>

入会の際はこの3つの会員のいずれかまでのご登録いただけます。ご入会にはご入会金等をご用意いただくのと、毎年年会費をご用意いただき顧問医による健康管理を受診いただく仕組みとなっております。現在の入会者は全国にまたがっており、このシステムをご利用になっています。

II. 会員の健診コースについて

この会員には以下の検診コースをご用意しています。

・エグゼクティブコース

3大成人病（がん・脳卒中、心臓病）を中心に体の隅々まで異常がないかを徹底的に検査します。正確な画像診断を下すために、受診していただく検査機器はPET・CT・MR・CT検査などを受診いただけます。

・セカンドライフコース

年齢が61歳以上の方が対象で、内容は上記エグゼクティブコースとほぼ同様ですが、脳と心臓の検査を年に1回ずつ交互に受診いただけるコースです。もちろんPET・CT検査を中心に検査します。

・プライムコース

上記セカンドライフコースを選択された方で61歳未満の方がお選びいただけます。もちろんPET・CT検査を中心に検査します。

・スタンダードコース

一般的な検診コースの内容です。画像診断はありません。

まず、会員は法人会員としてご入会いただくか、個人会員・家族会員としてご入会いただくかを決定し、入会時にどのコースを選択するかを決めていただきます。

約款等にご了解いただき、入会金・年会費をご入金いただくと、セントラルメディカル倶楽部会員として登録され当日から、顧問医としてのサービス提供を受けることが可能となります。また、会員にはさまざまな医療情報をご提供させていただいております。たとえば、インフルエンザの予防接種などは、優先的に確保いたしますし、その時期が来たら会員お一人お一人にご都合の良い時間や日時を調整し、来院時での待ち時間がほとんどないよう最優先の対応を実施しています。

III. 会員の年間スケジュール

セントラルメディカル倶楽部での会員は、年間を通して検診日時の管理を実施しております。運営窓のように会員は、常に健康管理を意識していただくのと同時に、少しでも体調が不良だったり、健康についてのご相談可能な体制を整備しております。

IV. その他の会員サービスについて

メディカル倶楽部会員には、会員専用電話を用意しております。電話での対応はメディカル倶楽部のスタッフですので、お問い合わせに関しては、一般の受診者や外来患者などと間違えることなくレスポンス良く対応しております。

また、会員がご来院される際には、検査結果の説明等にもメディカル倶楽部専属のスタッフが同室させていただき顧問医の指示が滞らないよう万全の配慮を実施しています。

なお、会員には検査結果をCDに保存しお渡したり、定期的に健康に関する情報、顧問医からのメッセージを会員に展開させていただくことにより、会員と顧問医の距離を縮め、いつでも相談できる体制を可能にしています。

●セントラルメディカル倶楽部について●

I. 会員の種類について

セントラルメディカル倶楽部では現在 400 名の会員が、入会され年に 2 回、精密な検診を受診いただいています。この会員様は以下の 2 種類の形態で組織しています。

1、法人会員

入会される方が最大 5 名集まり、(1 名でも可) 法人会員としてご登録いただきます。ここでの法人は必ずしも、公的に何か登録しているような法人ではなくても問題なく、たとえば友人や知人を最大で 5 名まで集め、任意の法人としてご登録いただいても結構です。

また、年に 1 度年会費の更新をしていただく際、更新される方をご登録いただくのですが、その際必ず入会時の方を更新するのではなく、法人会員の 5 名の枠での更新を実施されるかどうかを決めていただきますので、必ず入会時の方々のみを更新するというではありません。ですから、今年は自分を更新し、翌年はどなたか別の方を法人会員としてご登録いただいても結構です。言い換えれば、この 5 名の枠をフルにご活用いただいて、顧問医による健康管理をご利用いただければと思います。

当倶楽部には、現在この法人会員としてご登録いただいている方々がほぼ半数以上で、会社の経営層の方々やお友達、知人で集まられて法人会員としてご入会いただいているのが現状です。

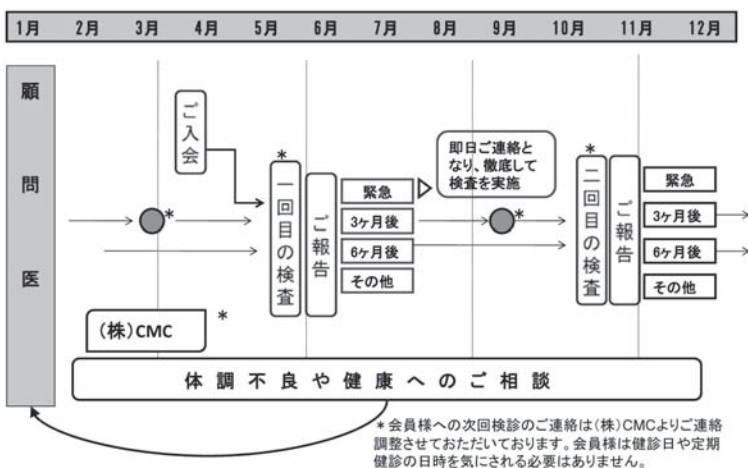
2、個人会員

入会される方がお一人のみで、入会される場合の仕組みです。ご入会される際、将来的にも、ご本人のみが受診していく、という方のご入会が多いです。

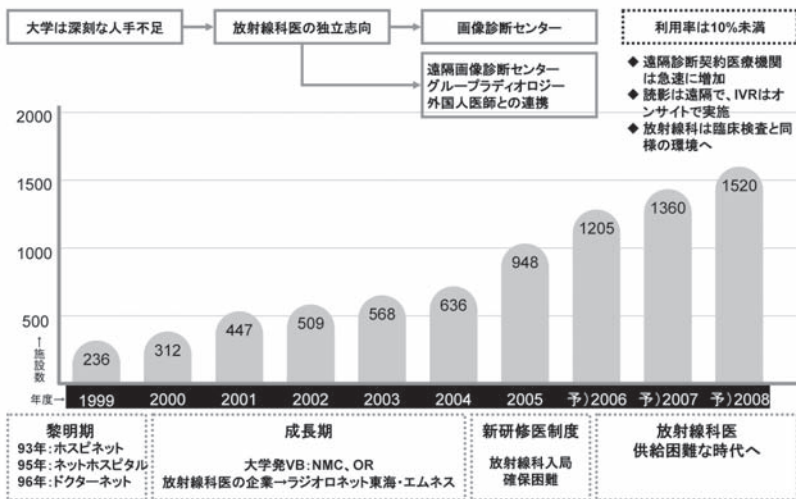
3、家族会員

個人会員のご家族が入会される場合に対象となる会員です。例えば、ご主人が個人会員としてご入会された場合、奥様を家族会員としてご登録いただくことが可能です。

セントラルメディカル倶楽部運営図



テレラジオロジー契約施設数の推移と放射線科医を取り巻く環境



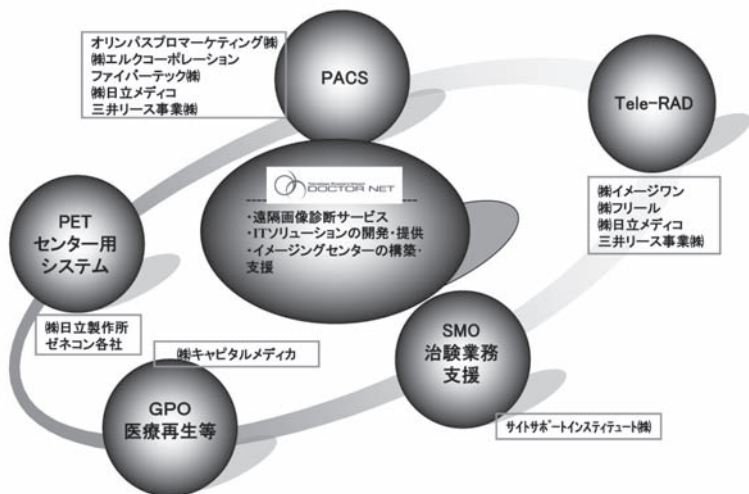
新臨床研修医制度により、放射線科を志望する若い医師は減少を続けている。大学に残った放射線科医に対する仕事量の増大は、研究や教育に十分な時間を割くことができず、ますます放射線科医の供給が困難となっている。この状況に合わせ遠隔診断は増加傾向を示しているが、全体のまだ10%程度の契約率で、成長性は十分あると思われる。

情勢を考慮すると、その割合は増加すると考えられています。実際に私達の読影件数は増加の一途を辿っているのです。

私達がサービスを開始した頃が黎明期、それから画像診断が本格的にITを駆使し始めた成長期を経て、新臨床研修医制度が始まり放射線科の入局者が少なくなり、放射線科医が供給困難な時代になっています。

つまり、

販売協力先



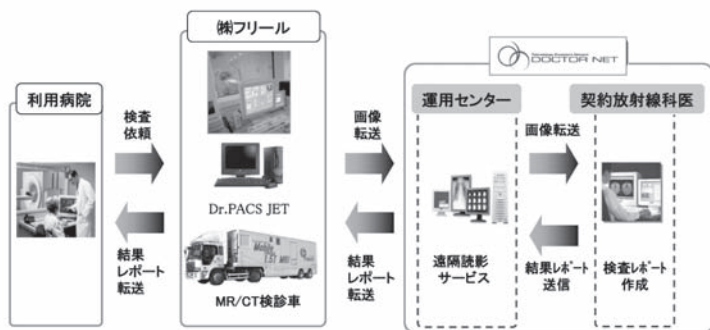
当社の商品やサービスとそれを販売いただいている関係会社の一覧です。各社とも画像診断を軸に様々なサービスや製品を供給していますが、目的は放射線診療を効率的に高いレベルで提供することが、医療レベルの向上に役立つからと確信するからです。いろいろな企業との協業で、日本の画像診断インフラを整備していきたいと思えます。

しれません。

さまざま企業との
協業

最近では、日本国内にもモバイルCTやMRIが存在します。CTやMRIを車載した健診車による検査支援を事業の柱としている企業にフリール(<http://www.freell.co.jp>)社があります。フリール社と提携し、フリール社の保有するすべてのモバイルで発生した画像を私達のサーバーに集めて読影しています。

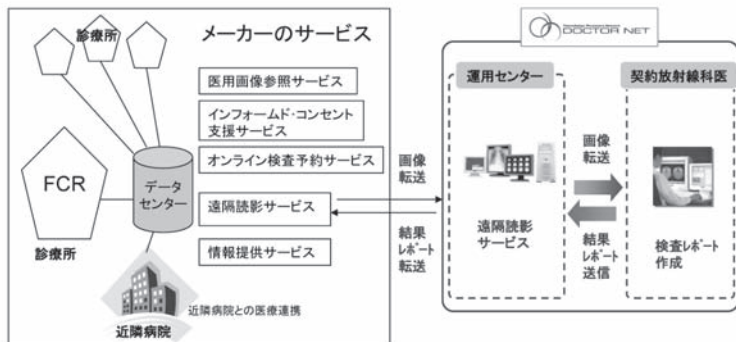
㈱フリールはMR/CTを搭載している健診車の展開を事業の柱としている会社です。当社は㈱フリールの検診車にも「Tele-RAD」を提供しています。



フリール（平川雅之社長：循環器専門医）社との協業により、すべてのバスの中に当社のDr-PACSを導入しています。フリールが撮影した画像はPACSを経由して当社運用センターに転送され、契約放射線科専門医が読影を実施する仕組みになっています。CTやMRIを持っていない医療機関が利用しても、放射線科医が画像診断を提供できるネットワークインフラを構築しています。また、医療の現場だけでなく検診センターにも出張して、CT、MRIによる高度な検診を提供しています。

また、富士ファイルムメデイカル社等の放射線診断機器のメーカーと協力し、メーカーから放射線機器導入時に「遠隔画像診断支援サービス（製品名：C@Rna）」を同時に導入するよう遠隔画像診断の促進を図っています。さらに、院内の画像診断ネットワーク(PACS: Picture Archiving and Communication System、ボックス)を構築するシステムベンダーとの間でも新たなサービスの発掘や、業務の省力化・効率化を目指しながら、遠隔読影の促進に向けての提携を行っています。

富士フィルムメディカル㈱等の放射線診断機器のメーカーと協力し、メーカーより放射線機器販売時に「Tele-RAD」を同時にサービス導入するよう促進を図り、シェアのアップを図っております。

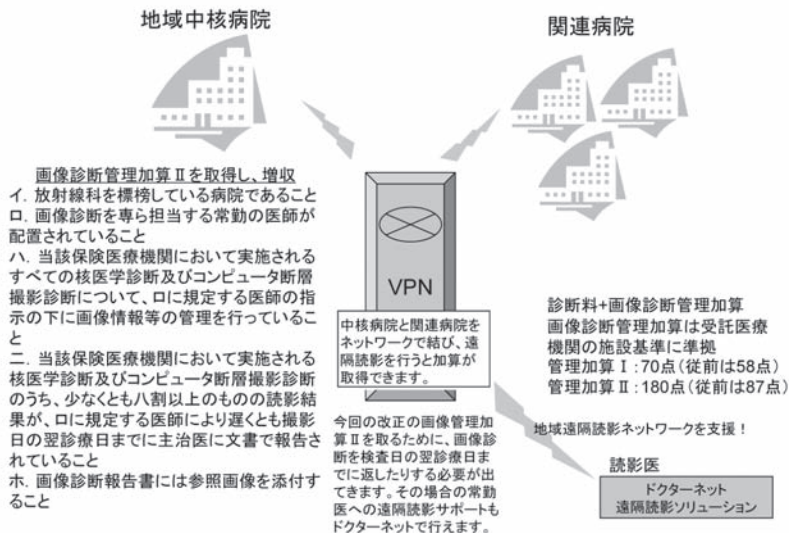


富士フィルム社との提携により、C@Rna（カルナ）という医療画像のネットワークサービスの中で当社の遠隔診断を採用いただいています。富士フィルムのCR装置でX線写真を撮影したときに、専門医の読影を必要とする場合は、コンソール上の遠隔診断ボタンを押すことにより、当社の運用センターに自動的に依頼がかかるシステムとなっています。富士フィルムのCRを購入すれば、読影に関してまったく心配ないシステムが提供できるのです。

遠隔画像診断は地域医療を救う

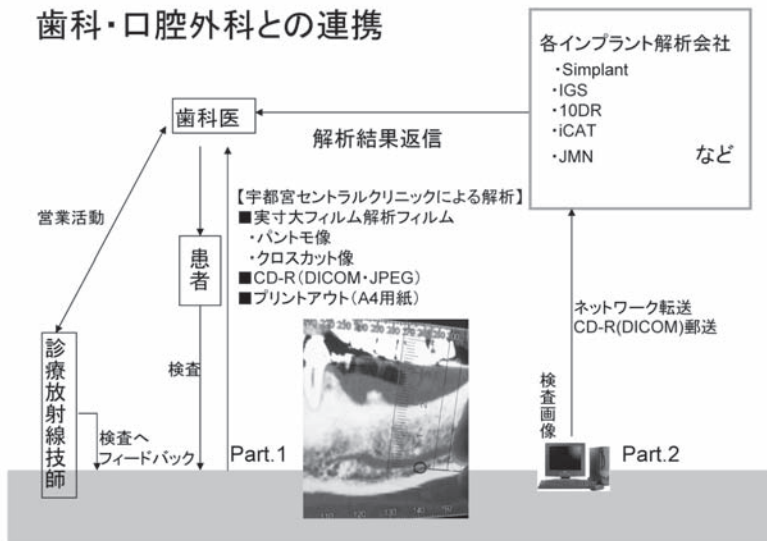
最近、地域医療の崩壊が連日のようにニュースになっています。先日も銚子市立総合病院が休止に追い込まれました。医師不足、地方財政の厳しさからの苦渋の選択だったと思います。地方の公的医療機関が赤字経営であることはさまざまな報道で伝えられ、全国に約970施設ある公的病院の75%は赤字経営だともいわれています。少ない人的資源を有効に活用しようと、地方を中心に医

遠隔画像診断支援と画像管理加算



地域中核病院が遠隔画像診断を請け負うと、診断を依頼した医療機関で遠隔診断管理加算を算定可能です。これは遠隔診断のインフラを使ってでも放射線診断医に読影してもらえば、700円あるいは1800円の報酬を加算するという保険制度です。基幹病院が忙しいときは、当社の読影医師が遠隔診断のネットワークを介してお手伝いできるようになっています。

歯科・口腔外科との連携



安全にインプラント治療を実施するためには、インプラントを打つあごの骨の状況を正確に診断する必要があります。このためにCT検査は必須で、歯科医院から画像診断センターにインプラント手術の診断目的で紹介を受けるケースが増えています。各インプラントデバイスを供給する会社も安全な実施を促進するために、当社と協業していただいています。当社では、各インプラントメーカーの規格に準拠して歯科の先生方の診療をサポートしています。

圏央入間クリニック(埼玉県入間市)



PET/CT biograph 16 (SIEMENS 社製)



1.5T-MRI Signa EXCITE (GE 社製)



マンモグラフィ



経鼻内視鏡



4列 MDCT
LightSpeed (GE 社製)

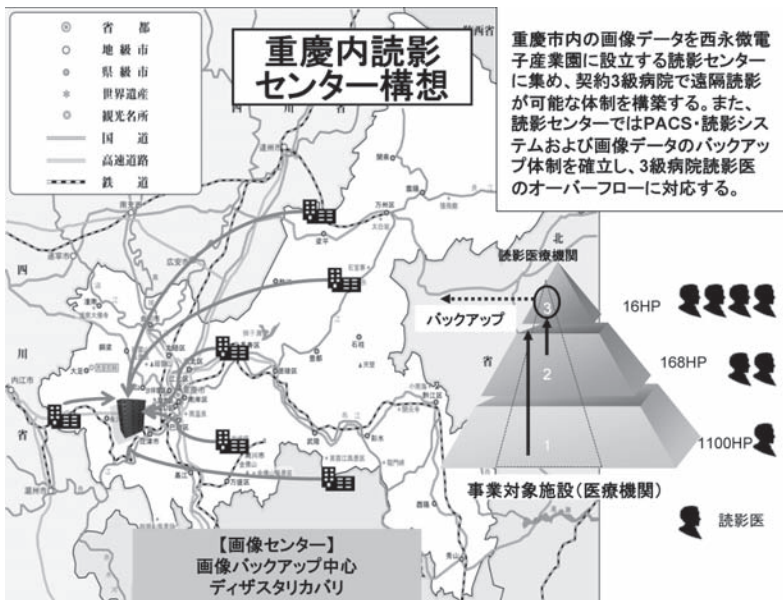


DR

当社が支援する画像診断センターの一つ。

ージメント(画像診断センターの建築をきちんとした導線管理の下に設計する)、それからセントラルメデイカル倶楽部のような自由診療のソフトを病院の中に導入するための仕組みを提供していこうとしています。

大きな病院や画像センターの運営を引き受けたり、中小病院やクリニックにサービスの総合的あるいは部分的な提供をしたりしています。検体検査の企業では、FMS (Facility Management System) ・ファシリテイマネジメントシステム)を実施しています。これは、病院経営にとって最適な状態(コスト最小、効果最



の読影医が遠隔読影でサポートできるような体制の構築です。読影センターにはPACS、読影システム及び画像データのバックアップ体制を確立し、3級病院読影医のオーバーフローに対応するようなネットワークが導入されることとなります。

こうした仕組みがしっかりと根付くように、また、遠隔読影環境をスムーズに構築するために医師（紹介医療機関）への報酬制度を確立していますが、これは日本では馴染みのない制度といえます。

本事業では5年目に250施設の参加を見込んでおり、読影件数は年間で25万件

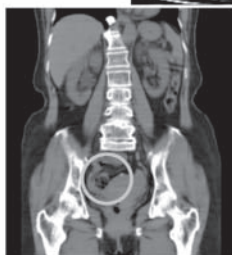
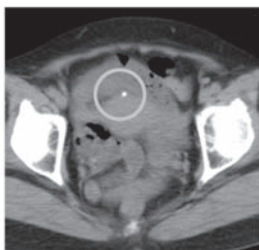
顧問医だからできること 1

中腸軸
捻転

2007/12



2008/06



同日某病院で手術。同院では「絞扼性イレウス」の診断。



開腹時に絞扼は自然に解除されていたが、回腸末端から60cmの位置に、絞扼していたと思われる圧痕を認めた。

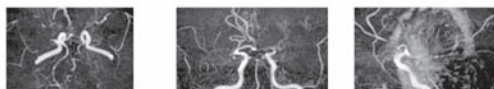
PET でがんを否定できているクライアントですので、まずその他の可能性を中心に注意深く、前年度の症状がないときの画像と比較することが重要です。前回の画像を見ていなければ、あるいは保管していなければ正確な診断ができなかったかもしれません。健康なときに画像を撮影しておいて、いざというときに備えることが重要です。

・ 過去画像データと比較
ができる
ということですが、
クライアントの情報を考
慮して過去と現在の画像を
見比べると、パズルを解く
ように正解が出てきます。
外科医からは「よくこの画
像で分かりましたね」とお
っしゃっていただきましたが、
このように患者に対す
る事前の情報がしっかりあ
れば、画像を見れば答えは
簡単に見つけられるのです。

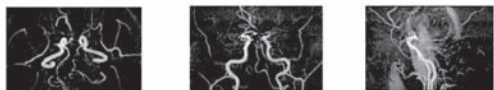
顧問医だからできること 2

モヤモヤ病

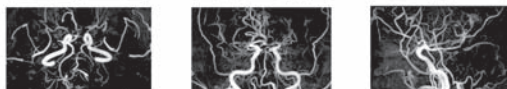
2005/06



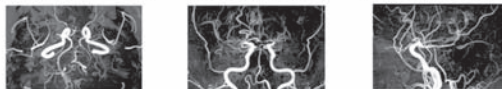
2006/05



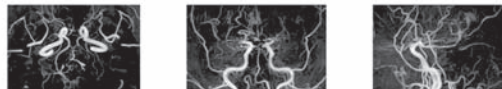
2007/02



2008/01



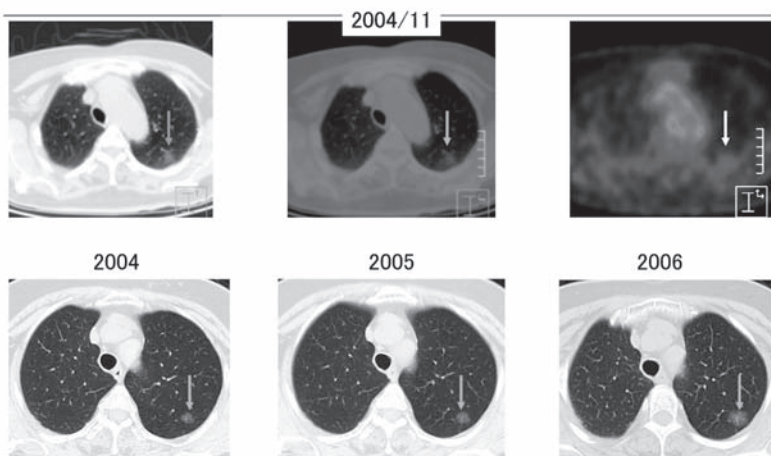
2008/06



若いときから頭痛がするというので、気にされていたのですが、セントラルメディカル倶楽部に入会されて初めて頭部のMRI検査を実施しました。そこで脳内の太い血管がほとんど詰まっていて、もやもやした新生血管で栄養されている様子がMRIの検査でわかり、モヤモヤ病という診断が下されました。合併症としては、脳梗塞も脳出血も両方ありうる危険な病態で、クライアントと相談して緊急の受け入れ体制を獨協医科大学脳神経外科の金彪教授にお願いしました。もしもの時の体制を前もって作っておけることも、セントラルメディカル倶楽部のメリットです。

顧問医だからできること 3

左肺上葉、高分化型腺癌



PET 検診だけでは、がんを見つけられなかったクライアントの例です。しかし、CT でははっきり左肺に腫瘍がありますので、肺がんであることは間違いありません。通常は、確定診断して定型的に上葉切除（肺の上 1/3 を切除）するのですが、PET では FDG が集まらないので、比較のおとなしいがんということで、いますぐに手術する必要はないとご説明しました。そこで 3 年間経過をみることになったのです。増大はしていますが、転移もありません。最終的には栃木県立がんセンターの松隈治久先生に内視鏡で手術していただきました。このように PET を使うと縮小手術が可能かどうかの判断に使用できるのです。